

商業高校における生きた英語の効果的指導方法

—会計言語を英語で学び、生徒の学習意欲を向上させるための工夫—

佐賀県立鹿島実業高等学校 英語科 井上 由紀子

1. はじめに

本校の生徒は、専門教科に対する学習意欲が高く、積極的に資格取得に取り組んでいる。しかし英語の基礎学力については「伸び悩む」という課題があった。しかし、英語は意思疎通のための道具であり、そうであれば、英語を道具として使いこなす姿勢を育むことが英語教師に求められる使命ではないかと考える。

本校の教育目標は「社会をたくましく生き抜く、人間性と専門性を兼ね備えた職業人を育成する」である。職業人育成という観点から英語の授業へのアプローチを行うことが、生徒の学習意欲向上にも有効であり本校の教育目標にも沿うと考え、職業人としての基礎知識である専門教科の内容を英語の授業に組み入れた取組を行うことにした。

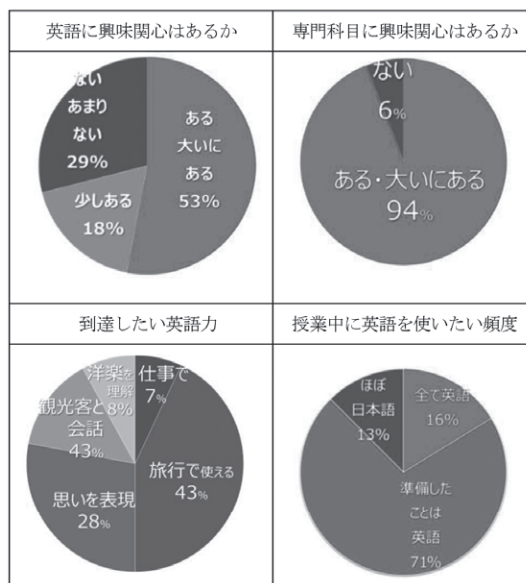
2. 仮説の設定

中学で学習した普通教科に比べ、高校入学後に専門科目として新たに学習を始めた商業科目に対する生徒の興味関心は高い。そこで「英語の授業にこれら商業科目の要素を取り入れれば、英語に対する興味関心も高まるのではないか」という仮説を立てて、授業改善に取り組むことにした。

3. 現状把握と目標設定

本校英語科が、生徒が卒業するまでに到達させたい英語力は「平易な既習の英語表現を用いて、自分や身の回りの事象について発信することができる」である。しかし、英語に苦手意識をもつ生徒にとっては、取り組み辛い課題でもあった。

本校に入学したばかりの1年生120人に英語に対する意識を調査したところ、29%の生徒が「英語に興味は、ない」と答えた。一方、専門科目に対する興味関心は高く、94%の生徒が「興味がある」(資料1)と答えた。そこで、英語に興味をもつことができるよう指導方法を工夫改善することにした。



(資料1) 現状把握

目標は (1)「基礎学力の指標としての校外模試」(2)「全商英検」(3)「生徒の学ぶ意識」の3つの観点から次のように設定した。

(1) 校外模試 (英語)

全体の10%を占める上位層を倍増させ、全体の40%を占める下位層を半減させる。

(2) 全商英検の目標合格率

3級は60%→80%, 2級は3%→20%まで引き上げる。

(3) 生徒の学ぶ意識

英語に興味をもたない生徒の割合（29％）を減少させる。また、専門教科に興味をもてないでいる生徒の割合（6％）を減少させる。

4. 対策の実施

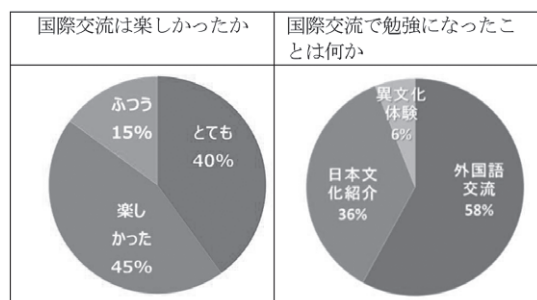
平成 25 年度に対策を開始した。まず上海工商信息学校との交流を行う「上海研修」の事前学習に英語による活動を加えた。平成 26 年度と平成 27 年度は「修学旅行」と「インターンシップ」を英語の授業で取り上げ、これらの取組から得た反省を踏まえ、平成 28 年度に会計言語と英語を関連付けた取組を行うことにした。

(1) 国際交流と英語

まず「上海研修」参加希望者を対象に、事前学習の一環として英語を用いて発表することを義務付け、パワーポイントを用いたプレゼンテーションの準備を英語で行うことにした。

実際の交流会では、生徒は自分で選択したテーマに沿って『日本の高校生の一日』や『佐賀県の観光』というプレゼンテーションを英語で発表した。その後の交歓会でもその話題に触れてもらい、より身近で親密な交流を行うことができた。この研修は、生徒が自分のコミュニケーション能力に対する自信をつけることができる貴重な機会となった。

中国の生徒たちとの交流という事で、事前には不安を口にする生徒もいたが、事後のアンケートの結果（資料 2）では、おおむね良好な意見が聞かれた。



（資料 2）国際交流後のアンケート

(2) 学校行事と英語

平成 26 年度と 27 年度は、多くの生徒にとって興味関心が高い「学校行事」を英語の授業で取り上げ、

英語でまとめる活動を行った（資料 3）。1 年生は「北海道修学旅行」への事前準備としてコース別の調べ学習を行った。これらの活動を行うことで、北海道への興味関心を高め、旅行先で目にする事象に対しても専門分野からの視点をもって観察することを狙いとし、その効果を確認した。

商品開発コース	北海道の商品研究
会計コース	北海道の企業研究
情報処理コース	北海道企業の HP 研究
情報管理コース	北海道の広告研究

（資料 3）調べ学習のテーマ

(3) インターンシップ体験記

本校の 2 年生は、2 学期に行うインターンシップ研修体験記を日本語でまとめている。そこでその体験記を英語学習にも生かそうと、翻訳ソフトを用いた英語による体験記作成を行った（資料 4）。

この活動を通して、生徒は「干潟」や「綱引き」などの身近な言葉が英語圏にも存在することを発見し、「干潟」や「綱引き」が外国でも生活に密着した語句であることを認識することができた。これらの活動を通して、生徒は外国が遠い世界にあるのでも、英語が特殊な言語でもなく、身近なものであることを実感できたようである。



（資料 4）「Excite. 英語翻訳」による翻訳

(4) 会計言語と英語

平成 28 年度には、1 年生の英語の授業において、買い物に関する寸劇作成を通して商取引に関する学習を行った。生徒は既習の簿記の知識を用いつつ英語を学ぶ経験を通し、身の回りのことや自身がもつ知識を英語で理解したり、表現したりすることに自信をもつことができた。同時に、簿記への興味関心も高めることができたことが確認された。

① 寸劇

授業は教科書（Lesson3 Kawaii Culture：東京書籍）の発展として行った。内容を読解した後、商取引の寸劇を作成し、発表した（資料5）。

Set phrases		
Sales clerk (販売側)	May I help you?	いりませんか?
	How would you like this?	これはいかがですか?
	This is a bargain.	これはお値打ちですよ
	It looks good. / They look good.	いいですね
	I believe this will appeal to you.	あなたのためだに思います
	We can offer you ○○ at ¥*.	*を○○を販売することが可能です
	This is the best price we can offer.	この値段がギリギリのところです
Customer (買注側)	But there is a *% discount for an order of @ units	@個ならば*%の値引きができます
	I would like to take a look at ○○.	○○を見たいです。
	We are interested in ○○.	○○に関心があります
	How much is this?	これはいくらですか?
	Do you have a bigger / smaller one?	大きい/小さいのはありますか?
	Do you have the same one with the color of ○○?	○色はありますか?

(資料5) 商取引に関するセリフ (寸劇作成用資料)

②英語による取引の作成

英語で寸劇の発表を行った後は、生徒が作成した商取引を英語に訳す作業に取り掛かった。(資料6-1) 本校の生徒は、英語に対する苦手意識が強いために、日本語をそのまま英語に翻訳する作業に手間取ることが多い。そこで、簿記の記帳に用いる文を勘定科目ごとに分類し(資料6-2)、その上で、英語の取引に用いられる比較的簡易な文をパターン化して、生徒に示した(資料7)。パターンに英語と数字を当てはめていくことで、日本語の取引を英語に訳しやすくなるよう工夫した。

通常の英語の授業では「英語は ①主語 ②動詞 ③目的語と並ぶ」と繰り返し、学んでいる。そのため、このパターンに当てはめて取引を英語で記

帳することで、英語をより深く理解することができる考えた。同時に英語を用いて帳簿を完成することから、生徒が英語力と簿記への自信をつけ、両科目への理解がより深まることを狙いとした。

③帳簿作成への準備作業

英訳作業の後、各班が作成した商取引を帳簿に落とし込み、最終的に英文で簿記の記帳を行った。

英文簿記の記帳をする前に、転記が平易な作業になるよう、取引に用いる英語による会計言語とその定義を一度復習した。この作業を経ることで、少々混乱気味になっていた生徒の思考がまとまった。生徒は“Debit”や“Credit”などの定義を確認して、安心して次の作業に取り掛かり始めた(資料8)。

④転記作業

取引を英語に訳した後、訳した英語の会計言語をそのまま使って帳簿へ転記する作業に取り掛かった。用いる英単語の意味を確認するために、あらかじめ配布した語彙リストを活用する生徒もいたが、多くの生徒は取引を英訳する作業の中で、英語による勘定科目を自然に学習することができた。

転記そのものは、簿記の授業で既に学んでいるため、会計言語の知識を用いて帳簿に英単語と数字を当てはめていくという平易な作業になった。はじめは「英語で簿記をするなんて無理!」と戸惑いを隠さなかった生徒たちも、作業に慣れてしまえば英語での転記作業に夢中になっていった。

Month	day	Event
May	31	ポッパコーン ¥1,000 を仕入れ、代金は掛けた。We purchased Merchandise (Inventory) of ¥1,000 on account.
June	1	ポッパコーン ¥1,000 を現金で戻した。We sold Merchandise (Inventory) of ¥1,000 in cash.
"	10	広告料 ¥20,000 を現金で支払った。We paid for (Advertising) for ¥20,000.
"	13	銀行から現金 ¥300,000 を振り入れた。We received ¥300,000 from the bank.
"	21	原価 ¥70,000 の商品を ¥100,000 で売って、代金は現金で受取った。We sold Merchandise of ¥100,000 and received ¥100,000 in cash.
"	25	借入金 ¥300,000 を現金で返済した。We paid for (Loan) for ¥300,000.
May	30	現金 ¥100,000 を出金して閉鎖した。We closed the cash book with ¥100,000.

(資料6-1) 生徒の作品

(広告料)	¥○○を支払った	⇒ paid for (広告料) for ¥○○
(商品)	¥○○を購入した	⇒ purchased (商品) of ¥○○
(商品)	¥○○を売って渡した	⇒ sold (商品) of ¥○○
	¥○○を受け取った	⇒ received ¥○○

(資料6-2) 英訳のパターン

Month	day	Event
May	31	ポッパコーン ¥1,000 を仕入れ、代金は掛けた。We purchased Merchandise (Inventory) of ¥1,000 on account.
June	1	ポッパコーン ¥1,000 を現金で戻した。We sold Merchandise (Inventory) of ¥1,000 in cash.
"	10	広告料 ¥20,000 を現金で支払った。We paid for (Advertising) for ¥20,000.
"	13	銀行から現金 ¥300,000 を振り入れた。We received ¥300,000 from the bank.
"	21	原価 ¥70,000 の商品を ¥100,000 で売って、代金は現金で受取った。We sold Merchandise of ¥100,000 and received ¥100,000 in cash.
"	25	借入金 ¥300,000 を現金で返済した。We paid for (Loan) for ¥300,000.
May	30	現金 ¥100,000 を出金して閉鎖した。We closed the cash book with ¥100,000.

Month	day	Event
May	31	ポッパコーン ¥1,000 を仕入れ、代金は掛けた。We purchased Merchandise (Inventory) of ¥1,000 on account.
June	1	ポッパコーン ¥1,000 を現金で戻した。We sold Merchandise (Inventory) of ¥1,000 in cash.
"	10	広告料 ¥20,000 を現金で支払った。We paid for (Advertising) for ¥20,000.
"	13	銀行から現金 ¥300,000 を振り入れた。We received ¥300,000 from the bank.
"	21	原価 ¥70,000 の商品を ¥100,000 で売って、代金は現金で受取った。We sold Merchandise of ¥100,000 and received ¥100,000 in cash.
"	25	借入金 ¥300,000 を現金で返済した。We paid for (Loan) for ¥300,000.
May	30	現金 ¥100,000 を出金して閉鎖した。We closed the cash book with ¥100,000.

(資料7) 英訳のパターン (具体例)

生徒からは途中、「先生、これは英語じゃなくて、簿記の授業ですよね？」という声があがったが、このように感じることがこの授業の目的であり、この一言が当初の目的が達成された証にもなった。

資産 (Assets)		負債 (Liabilities)		実施期間 1年生6月
Debit	Credit	Debit	Credit	
Increase	Decrease	Decrease	Increase	
		資本 (Capital)		1学期中間考査後
		Debit	Credit	
		(Decrease)	Increase	
費用 (Expenses)		収益 (Revenues)		基礎の確認
Debit	Credit	Debit	Credit	
Increase	Decrease	Decrease	Increase	

(資料 8) 帳簿作成への準備作業 (勘定科目などの復習)

Customer category 1 Name: _____ Address: _____ City: _____ State: _____ Zip: _____ Phone: _____ Email: _____ Date: _____ Time: _____ User: _____ Password: _____ Confirm: _____ Submit	Transaction date Description May 30 We invested cash \$100,000 to begin our business. Jun 01 We purchased merchandise for \$1,000. Jun 05 We purchased merchandise for \$1,000. Jun 10 We purchased merchandise for \$1,000. Jun 15 We purchased merchandise for \$1,000. Jun 20 We purchased merchandise for \$1,000. Jun 25 We purchased merchandise for \$1,000. Jun 30 We purchased merchandise for \$1,000. Total
---	--

(資料 9) 生徒の作品

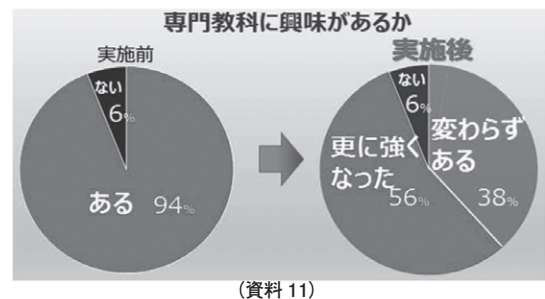
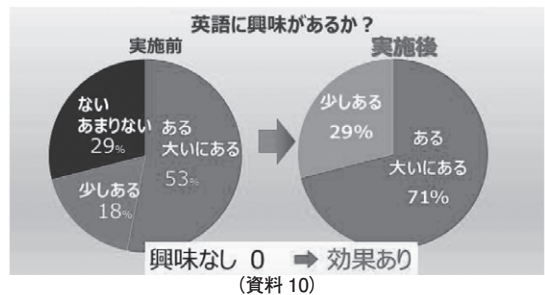
5. 効果の検証

今回の一連の取組を通して、生徒の英語の興味関心に与えた影響と校外模試の結果を検証した。その結果、校外模試については、下位層が50%減少し、上位層は70%増加したことが確認された。

また、「英語に興味がない」と答える生徒は0%になり(資料10)、専門教科に対する興味関心についても、BATIC受験への意欲を示す生徒も現れるなど、学習全般への関心が高まったことが確認された(資料11)。

全商英検の合格率は、3級は80%を達成し、2級は目標値には届かなかったものの、3%から10%に向上し、一定の効果を確認することができた。

これらの結果を得ることができたのは、専門科目の内容を英語の授業に取り入れることで、生徒の英語に対する苦手意識が減少し、自主的に学習する機会が増えたためだと考えられる。



6. 今後の課題

一連の取組を終えて、生徒の学習意欲の高まりを確認することはできたが、同時にいくつかの課題が浮き彫りになった。教師側の簿記に対する理解が十分でなく、生徒の質問に迅速に対応できない場面があり、簿記の初歩的な知識のみで授業を進めることには限界があることが明らかになった。

一方で、教材が整備されており必要最小限の知識を得ることができれば、簿記の経験がない教員でも、簿記に関する内容を英語の授業で取り上げることが可能だと考えられる。教員向けの研修資料や体系的な教材の整備に向けて研究を深めたい。

7. おわりに

生徒が興味をもつ専門科目の内容を英語の授業で取り上げることで、基礎学力と検定試験の合格率が向上し、学習意欲が高まることが確認された。生徒の興味関心や学校として身に付けさせたい力を考慮して授業内容を組み立てることで主体的な学習を促し、生徒の学力向上に一定の成果を得ることができるのだ。

今後は体系的な教材を作成するとともに、更に研究を重ね、現場に広く導入されるよう指導方法を確認していきたい。